

日本現代中国学会 2024 年度関西部会大会のご案内

日本現代中国学会 2024 年度関西部会大会のプログラムをお届けいたします。周囲の方々にもお声をかけていただき、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

【学会の開催形態】 対面形式を基本とします。

■日本現代中国学会 2024 年度関西部会大会〈プログラム〉

【日時】 2024 年 6 月 22 日（土）10:00～17:00（受付は午前 9 時半頃より開始）

【会場】 京都大学吉田南キャンパス 吉田南総合館（北棟）

【受付】 北棟 2 階

【参加費】 無料（懇親会費用は別途）

【自由論題報告】 10:00～12:00（報告 30 分、コメント・討論 10 分）

<経済分科会> *会場：共北 25 教室（2F）

■ 司会：中川涼司（立命館大学）

- 第一報告（10:40～11:20）：何格尔（立命館大学）

「中国企業による日本企業の M&A の正当化：言語分析の視点から」

コメンテーター：梶谷懐（神戸大学）

- 第二報告（11:20～12:00）：韓金江（岐阜協立大学）

「機械産業の生産財分野から見る中国工業化の特徴」

コメンテーター：横井和彦（同志社大学）

<社会分科会> *会場：共北 26 教室（2F）

■ 司会：三好恵真子（大阪大学）

- 第一報告（10:00～10:40）：張曼青（京都大学）

「中国における肥料農法の転換および農民の主体性」

コメンテーター：林宰司（滋賀県立大学）

- 第二報告（10:40～11:20）：朝木日力格（大阪大学・院）

「中国内モンゴル自治区の放牧制限下における畜舎牧業

—一定住化にて生活するモンゴル人がなぜ牧畜から離れないのか—」

コメンテーター：何彦旻（追手門学院大学）

- 第三報告（11:20～12:00）：王石諾（大阪大学・院）

「『単位制社会』の弱体化に伴う移動経験から見えてくる日中『二つの東北』の痛み

—結婚移民となった中国人女性のライフストーリーを手掛かりに—」

コメンテーター：横山政子（志學館大学）

<文化分科会> *会場：共北 27 教室 (2F)

■ 司会：西村正男 (関西学院大学)

- 第一報告 (10:00~10:40)：辻直美 (同志社大学・院)

「文物保護者としての周恩来「神話」を問い直す」

コメンテーター：坂井田夕起子 (愛知大学学国際問題研究所)

- 第二報告 (10:40~11:20)：管新寧 (大阪公立大学・院)

「博覧会の視覚的表現から見る満洲映画『皆大歡喜』」

コメンテーター：劉文兵 (大阪大学)

- 第三報告 (11:20~12:00)：宋元祺 (関西学院大学・院)

「軍中作家としての朱西甯 1949 年の渡台から 72 年の退役まで」

コメンテーター：三須祐介 (立命館大学)

【昼食休憩】 12:00~13:30

【共通論題】 13:30~17:00 *会場 共北 25 教室 (2F)

テーマ：中国農村社会の変貌—農業、農村・農民文学、農村ガバナンスの視点から—

共通論題趣旨：

中華人民共和国の成立後、中国は工業化を進め、また、改革開放後の発展によって製造業大国となった。その一方で、中国の農業人口・農村人口の比率は依然として日本などに比べ非常に多い。また、農産物輸入の拡大の一方で、食糧安全保障の観点から食糧の高い自給率の維持にも尽力をしてきた。

これらのことから、中国の農村や農業は政治学、経済学、社会学の大きな焦点となっており、また、農村が文学や映像作品の題材となることも多く存在した。

しかし、農村・農業・農民は大きな転機にある。中国共産党と中国国務院は 2004 年以来 21 年連続で、新年最初に当該年の優先課題を示す「1 号文件」として、農村、農業、農民に関わる問題を取り上げている。2022 年は食糧安全保障、種苗業の振興、再貧困化の防止、農業インフラの整備などが、2023 年は「農業強国」が初めて重点化され、また、住みやすく働きやすく美しい農村建設の提起がされた。2024 年は「千万プロジェクト」として浙江省の振興モデルを広めることが提起された。

これらの背景には、農村から都市への人口移動による過疎化、食糧自給率の低下、両親の出稼ぎや移住による「留守児童」や「流動児童」の大量発生など、農村、農業、農民の連鎖的な諸問題の深刻化がある。

今回の関西部会大会はこのような農村の姿を、農村からの人口流出と過疎化、農業生産の諸問題、農村におけるガバナンスの諸問題、また、これらの諸問題を背景に生み出された農村や農民を描いた文学の諸側面から考察する。

会員の皆様のご参加と活発な議論をおねがいたします。

共通論題次第：

- 13:30～13:35 司会・趣旨説明：小島泰雄（京都大学）
13:35～14:20 巖善平（同志社大学）
「中国における農業・農村・農民の現状と展望」
14:20～15:05 櫻井次郎（龍谷大学）
「訴訟から見えてくる中国農村の環境問題」
15:05～15:50 加藤三由紀（和光大学）
「中国「新郷土文学」と農村・農民への視線の変貌」
15:50～16:00 休憩
16:00～16:20 総括コメント：田原史起（東京大学）、宇野木洋（立命館大学）
16:20～17:00 討論

共通論題報告要旨：

巖善平 中国における農業・農村・農民の現状と展望

農業、農村、農民という「三農」は中国のアキレス腱だと呼ばれる時期があった。国による農産物の低価格買付（農業搾取）、農村公共サービスへの財政投入の抑制（農村軽視）、農民の都市への移住制限（農民差別）を特徴とする「三農政策」が新中国成立後採られ続け、その結果として、農業不安、農村荒廃、農民貧困という「三農問題」は長年中国を悩ませ、そして、2000年代初頭には経済発展と社会安定を脅かす存在となった。諸問題を解消すべく、政府は三農政策の転換を強力に進めた。2004年から2024年の20余年にわたり、農業の増産、農村の振興、農民の増収を目的とする新しい政策が年頭発出の「党中央第1号文書」として出され続けたことはその表れといえる。それ以前と正反対の政策が実施された結果、ここ20余年において、三農の状況が大きく変化している。本報告は、三農で起きた地殻変動に焦点を当て、三農問題がどのように変容してきているかについて、政策・制度やデータの分析を通じて明らかにし、今後の展望を示す。

櫻井次郎 訴訟から見えてくる中国農村の環境問題

広大な中国では、北部と南部、東部と西部で自然環境も農産物も農業による収益も大きく異なる。また、そこにおける環境問題についても、砂漠化や塩害など1949年以前から引き継がれてきた問題、1960年代の森林乱伐、過剰放牧、それらを原因とする土壌侵食（水土流出）、三線建設の影響、改革開放後の工業化に伴い増加した酸性雨、都市及び工鉦業集積地周辺の大気汚染、河川・湖沼の水質汚濁、土壌汚染、都市を包囲する廃棄物問題、農薬や化学肥料などによる面源汚染、無計画な開発行為による生態系の攪乱、外来侵入種の影響、そして近年の気候変動による農作物等への影響など多様であり、各地の農村・農民・農業にそれぞれの特性によって異なる影響を与えている。

報告者は、環境訴訟の係争地を中心に、環境問題に起因する被害者の救済、環境改善に

において政府および人民法院が果たす役割について研究を進めてきたが、係争地のなかには農村も多く、現地訪問の過程でいくつかの農村が置かれている現状についても観察してきた。本報告では、特に鉱工業による農村・農民・農業への影響について、ガバナンスの諸問題と関連させつつ、現地で得られた知見も含め話題提供したいと考えている。

加藤三由紀 中国「新郷土文学」と農村・農民への視線の変貌

近年、「郷村振興」のスローガンのもとで、農民、農村を描く文学を「新郷土文学」という枠に括り、「新郷土中国」に結ぼうとする批評が数多書かれている。社会の変貌に根ざして中国式現代化建設という「山郷巨変」の過程をリアルに描くこと、中国郷村文化を西洋との対置にとどまらない新しいものに铸なおすことが文学に期待されている。文学批評の大枠だけを見ると半世紀以上逆戻りしたかのようだが、実作のフィクションとその批評を丁寧に読み解けば、そこには、モデルからこぼれる多様な思いが表現されている。その表現は、20世紀半ば以降、農村、農民を描くフィクションが培ってきた蓄積でもあろう。農村は、1950年代、60年代には社会主義建設という国家プロジェクトに向けた未来図として、改革開放の時代には都市・農村二元構造から異郷として、また一方ではアイデンティティを保障する場の郷土＝故郷として、描かれてきた。これら半世紀余りの文学を今日までたどり、今日のフィクションに表現された農村・農民への視線の変貌を探究する。

【懇親会】 17:30～19:30

会場：京都大学 カフェレストラン「カンフォーラ」（予定）

（京都大学正門の西側）

TEL：075-753-7628

URL：https://www.s-coop.net/shop_guide/yoshida_shop/#cafe_cafola

一般 5,000円 院生 3,000円

■参加申込

大会参加は下記のフォームから6月4日（火）までにお申し込みください。フォーム送信後、控えのメールが自動送信されます。

大会参加申込フォーム <https://forms.gle/RPfc75pYeKEufLHT6>

■ 参加者の皆さんへ

1. 会場には、駐車場、駐輪場はありませんので、公共交通機関でお越しください。当日の昼食は周辺のレストランやコンビニエンスストアなどをご利用ください。

2. 出張依頼状への押印は関西西部会事務局ではなく、全国事務局で行います。必要とされる方は、下記宛ご連絡ください。

〒112-0012

東京都文京区大塚 6-22-18 一般社団法人 中国研究所内

日本現代中国学会事務局

TEL : 03-3947-8029 / FAX : 03-3947-8039

E-mail : c-genchu[アットマーク]tcn-catv.ne.jp

3. 関西西部会大会会場では、学会費の納入はできません。学会費は学会事務局に納入してください。学会費の振替口座番号等は以下の通りです。

- ・口座名称：日本現代中国学会
- ・口座番号：00190-6-155984

なお、インターネットバンキングを利用する場合、下記のゆうちょ銀行口座に納入してください。

- ・店名：ゆうちょ銀行ゼロイチキュー（〇一九）支店
- ・預金種目：当座
- ・口座番号：0155984

4. 会場にコピー機はありません。報告者の方は配布資料をあらかじめ印刷してご持参ください。

5. Wifi サービス：Eduroam が利用できます。Eduroam に加盟していない研究機関の研究者には個別に Eduroam ビジター用アカウントを発行できます。

6. 託児サービスの利用料補助があります（予算に限りがあるため、補助金額は利用者数によって変動します）。希望される方は、6月4日（火）までに大会参加フォームでお申し込みください。

託児サービスの問い合わせ先

菅原慶乃（関西大学）

E-mail : yoshino24[アットマーク]nifty.com

日本現代中国学会関西西部会事務局（〒603-8577 京都府
京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学国際関係学部
中川涼司研究室）

連絡先：2024年度関西西部会大会プログラム担当・小都晶子（摂南大学）

jamcs.kansai[アットマーク]gmail.com

■ 会場へのアクセス

京都大学吉田南キャンパス 吉田南総合館（北棟）（住所：京都府京都市左京区吉田二本松町）

アクセスマップ <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus>



キャンパスマップ <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-ys>



86の北棟